

カムエク登山中止の決断

カムイエクウチカウシ山に登る予定で、8月1日札幌から帯広に向かった。「カムエク」と、畏敬と憧れの念で呼び親しまれている日高の難峰、登山者垂涎の峰。1970年には福岡大学山岳部パーティーがヒグマに襲われ、3人が死亡している。昨年のペテガリ岳に続け、今年はカムエクを狙に乗せたのだ。

前日31日は、ICI石井スポーツ札幌店とゴールドウィン、ザ・ノースフェイスのイベントで室蘭岳に登った。天気が悪いという予報だったのに、前日になって晴れに変わった。ラッキー！7月に入って北海道は、中旬に3、4日晴れたのを除けば、ずっと雨だったそうだ。このイベントも札幌の方々は雨を覚悟しての参加申し込みだっただけに、晴れて楽しい登山の一日になった。

1日はグズついた天気だった。アプローチの札内川が増水していて危険、という情報が入っていた。2、3日前、増水で身動き取れなくなり、ヘリで救出されたパーティーがあったと聞かされたのだ。帯広のホテルに入る前、ゲートまで偵察に行ってみた。グズついていた天気が、山に入ると土砂降りになって、雷も鳴り始めた。ゲート付近から覗き込む札内川は濁流、即、カムエク登山中止を決断した。

日高はアプローチが谷筋という山が多い。1日には別の山で、やはり増水で身動き取れなくなり、ガイドは自力下山したものの、参加者8人はヘリで救出されたとのニュースを聞いた。前述のカムエクからヘリで救出されたパーティーも、ガイド登山であった。昨今、ガイド登山・ツアー登山での遭難事故が増えている。なぜか？

答えは単純明快、その登山がコマーシャルベースで、金銭の授受があるからだ。金銭の授受が悪いのではない、金銭の授受に縛られて中止を決断できないガイドや、旅程管理を優先してしまう添乗員に問題がある。登山中止の決断は、難しいことではない。ガイド(リーダー)がヤバイと感じたら、その登山は中止と決断すればいい。金銭の授受に縛られていると、簡単に中止の決断ができない。経済的事情に縛られて、登山的判断を躊躇する、逡巡してしまう。プロ足り得ていないのだ。その時、金銭の授受がなかったら、瞬時に登山中止を決断できるであろうし、あるいはまた登山強行を決断できるであろう。金銭の授受があっても、それに縛られず、次のステップを決断できてこそ、プロというものである。

業界では、ガイドのスキルアップが課題とされているようだが、むしろ課題は、経済的事情に縛られず危機管理ができる、プロとしての自覚の獲得ではあるまいか。

なあんてことを、つらつら考えながら、ユニ石狩岳に登り、ニペソツ山に登り、ニセイカシュペ山に登ってきた。北海道の山は、いいなあ。スケールがでっかい。来年また、カムイエクウチカウシ山を計画しようっと……。